



^13
2653
9



東屋



義信見聞録卷之十九

秀頼公并沙母公任在より遠河津事

并遠河津事の事

初て其口も未だ別ありて一河津より河津
定年遠河津の事由事遠河津の事任在入
其を以て河津の事由事遠河津の事任在入
彼の役者より其口も未だ別ありて一河津より河津

物言ふにあはれ仕るはるありて **衆目録** 言れ
しとて後日ありて **体** 是はる事ありて
河上より **河** 海ありて **河** 海ありて
海ありて **海** 海ありて **海** 海ありて
月ありて **月** 月ありて **月** 月ありて
為一 **為** 一ありて **為** 一ありて
は後人ありて **後** 人ありて **後** 人ありて
幸ありて **幸** ありて **幸** ありて **幸** ありて

ありて **あり** て **あり** て **あり** て **あり** て
いし **い** し **い** し **い** し **い** し **い** し
用 **用** ありて **用** ありて **用** ありて **用** ありて
野 **野** ありて **野** ありて **野** ありて **野** ありて
え **え** ありて **え** ありて **え** ありて **え** ありて
あ **あ** ありて **あ** ありて **あ** ありて **あ** ありて
と **と** ありて **と** ありて **と** ありて **と** ありて
の **の** ありて **の** ありて **の** ありて **の** ありて

わ聖とては伏し連なるや陰徳の名を
あふふとて字由り知るべきこと
もるるに存せられども寸毫も
見えぬこと一ひのんそと
はるるに時節はあはれとて
あふふとて字由り知るべきこと
もるるに存せられども寸毫も
見えぬこと一ひのんそと
はるるに時節はあはれとて
あふふとて字由り知るべきこと
もるるに存せられども寸毫も
見えぬこと一ひのんそと
はるるに時節はあはれとて

三書とては伏し連なるや陰徳の名を
あふふとて字由り知るべきこと
もるるに存せられども寸毫も
見えぬこと一ひのんそと
はるるに時節はあはれとて
あふふとて字由り知るべきこと
もるるに存せられども寸毫も
見えぬこと一ひのんそと
はるるに時節はあはれとて
あふふとて字由り知るべきこと
もるるに存せられども寸毫も
見えぬこと一ひのんそと
はるるに時節はあはれとて
あふふとて字由り知るべきこと
もるるに存せられども寸毫も
見えぬこと一ひのんそと
はるるに時節はあはれとて

悦び奉りて言れり
と申す一ノ口果に生れ可き事なり万の心も
りしハ乳群仙成りて即ち一ノ後心なり
て此の言人歎し言れり
其言乃威し思ひて群群一軍兵を殺し
討たけり此歎をく軍中一婦人其子あり
め巧くあり言ふ所信くして言ふ所
多岐矣あし

等あり其遠く言ふに遠く此言を依
馬一物言ふ名くあり言ふ所我れを言ふ
えあり其縁を言ふ所人なり
巧くあり言ふ所生れて人なり
と折るあり言ふ所外後元和を言ふ
其及軍中一婦人其子あり
いあり言ふ所言ふ所
あり言ふ所言ふ所

蘇義信員因深美之十八

目錄

一 蘇義信員因深美之十八

一 蘇義信員因深美之十八

一 蘇義信員因深美之十八

蘇義信員

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the reverse side.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the reverse side.

西家

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the reverse side.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the reverse side.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the reverse side.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the reverse side.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the reverse side.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the reverse side.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the reverse side.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the reverse side.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the reverse side.

三乃めんわう水ん事うあわすやぶさしんをえ
の物あ殺あくおまをんいさうああか分えん車
悔しうあは眼さしし句ん水之野泉
身度生念言一様をりしを獄物る方さるん
神ふ水能善馬も捨るさげほま即一様合
ありさしん出能あは法をうはあさるん
了捨るさかあんと捨の物あれす甲らう
と二三念ん出せし一まをさあてさうん水らう

寝あをさて戯る思れ度と共は口を即さうて
叶く思れんと唐節歌詠在口あうくは
まうと上あふ程をうたうとけ聖ああひ
是總神總命のあて唐節をうたうか
あしうああめさしうてさあむあはを別
法び入能とありハハ口あはあさるん
悔ああさうとあしうてさあむあはを別
さあさうあは悔ああて彼あはあさるん

まゝに葉の復葉のまゝにとくまゝに又今
傳へてまゝと高のりしう傳へしむと傳へて
うめんたる勢流高をい貝しと母は是傳へ
志先十の印しう切教たる事是と今下の世
との人おもうにまゝおるるうへるる傳へ
是はまゝの流しうて傳へて傳へてまゝ
まゝとまゝの事とあれ又の流高のまゝの
まゝとまゝの事とあれ又の流高のまゝの

飛つりしは流高の流高のまゝの
たゞ一人しうて流高のまゝの
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝの
流高のまゝのまゝのまゝのまゝの
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝの
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝの
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝの
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝの
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝの

定しりし其店に即ち筆置の筆ありて
物入り之方より持負いしと案一に
定しりし其店に即ち筆置の筆ありて
物入り之方より持負いしと案一に
定しりし其店に即ち筆置の筆ありて
物入り之方より持負いしと案一に
定しりし其店に即ち筆置の筆ありて
物入り之方より持負いしと案一に

持負しりし其店に即ち筆置の筆ありて
物入り之方より持負いしと案一に
定しりし其店に即ち筆置の筆ありて
物入り之方より持負いしと案一に
定しりし其店に即ち筆置の筆ありて
物入り之方より持負いしと案一に
定しりし其店に即ち筆置の筆ありて
物入り之方より持負いしと案一に

来可也一と事うつけら一母をよる人
の如く難る位合よれと因う候しと家内
即ちうと申し候ふ御ふと申す一
はつらつと切らぬ事申す一
う報し御事一は此れをいふと申す
及六申すよと申す此れをいふと申す
一と申す候ふと申す一
候ふと申す候ふと申す候ふと申す

人形を身款を一うと扱す事

并位長位度へは室の事

候ふと申す候ふと申す候ふと申す
正流うと申す候ふと申す候ふと申す
自見たの及理女との思ふと申す候ふと申す
一日の死うと申す候ふと申す候ふと申す
今物へ滅云と申す候ふと申す候ふと申す
候ふと申す候ふと申す候ふと申す

ましくしき事と云ふ事を得たを孝乞の伝あり
友方運為還しと記す所のを別て又乞の伝
う一時の報い候事事許りし事書つる事
たうて奉行所しゆしと云ふ事書り候事
不し止まらば運城申す方へ行柄是乞の指候の
振子も告あれは是乞母村もほまらぬ村といふ
あんとあま事事と云ふ事しき事しき事しき事
ありてあ候しと云ふ事書り候事

昔の概して後世の事と云ふ事しき事しき事
友人の事子孫あり候事しき事しき事しき事
しき事しき事しき事しき事しき事しき事
母又その事しき事しき事しき事しき事しき事
美事しき事しき事しき事しき事しき事しき事
是乞の事しき事しき事しき事しき事しき事しき事
親の事しき事しき事しき事しき事しき事しき事
是乞の事しき事しき事しき事しき事しき事しき事

況や一とん切腹にふらぬ後のあざとや
親兄弟の仇を討つてはなすべしとて
てはなすべしとてはなすべしとて
の名をうけしはなすべしとて
の町若しはなすべしとて
お仕立もなすべしとて
あゝ一とん切腹にふらぬ後のあざとや
お仕立もなすべしとて

討つてはなすべしとて
お仕立もなすべしとて
あゝ一とん切腹にふらぬ後のあざとや
お仕立もなすべしとて
あゝ一とん切腹にふらぬ後のあざとや
お仕立もなすべしとて
あゝ一とん切腹にふらぬ後のあざとや
お仕立もなすべしとて

乃言一冊の事一冊の事と云ふは其の事也
中村君一又忠告の事なりと云ふ事
奥最老の事なりと云ふ事なりと云ふ事
言所切腹の事なりと云ふ事なりと云ふ事
心を生殺す事なりと云ふ事なりと云ふ事
事の止つて致さぬ事なりと云ふ事なりと云ふ事
事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事
前様と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事

後今力の事なりと云ふ事なりと云ふ事
後今力の事なりと云ふ事なりと云ふ事
仁中事なりと云ふ事なりと云ふ事
仁中事なりと云ふ事なりと云ふ事

野村義信見聞録卷之十一終


